

令和2年度 病害虫発生予察情報

注意報 第5号

令和2年7月13日
岩手県病害虫防除所

リンゴ褐斑病の発生園地率が高くなっています。

既発生園や前年多発園では、速やかに特別散布を実施しましょう。

- 1 対象作物、病害虫 : りんご、褐斑病
- 2 対象地域 : 県下全域
- 3 発生時期（加害時期） : -
- 4 発生量 : 多（前年並）
- 5 予報の根拠

- (1) 基準圃場（北上市成田、ふじ、無防除）では、例年より早い6月第1半旬に初発生が確認され、また、現地でも複数の園地で早期発生している。早期発生が複数の園地でみられた地域では、秋期になると広域的に発生する傾向がある（平成29年度病害虫防除技術情報 No. 29-1「リンゴ褐斑病の多発要因の解析と発生予察法の改善」）。
- (2) 前年秋期の発生園地率が高かったことから、園地内の伝染源密度は高いと推察される（図1）。
- (3) 7月前半の巡回調査での発生園地率は12.9%（平年1.9%、H30年6.5%、R1年12.9%）で平年より高く、特に前年秋期に多発した県中部の園地で発病樹率が高かった（図1、2、3）。
- (4) 向こう1か月（7/11～8/10）の降水量は平年並か多い予報であり、本病の発生に好適な条件。

6 防除対策

- (1) 本病の発生が確認された場合は、速やかにトップジンM水和剤またはベンレート水和剤を特別散布する。ただし、ラビライト水和剤を既に使用した場合には、耐性菌対策のためにユニックス顆粒水和剤47を使用する。
- (2) 前年多発園（前年秋期に黄変落葉が目立った園地）で、本年、これまでに本病を対象とした特別散布を実施していない園地では、発生の有無にかかわらず、速やかに特別散布を実施する。
- (3) 散布むらが発生要因となるので、樹全体に十分薬液が付着するように散布する。
- (4) 定期的に園地をよく観察する。黄変葉や褐色の病斑葉が確認されたら、付近の葉を含めて観察する。本病であれば、病斑や病斑付近の緑色の部分に黒色虫糞状の粒々（分生子層）が必ず観察される（図4）。

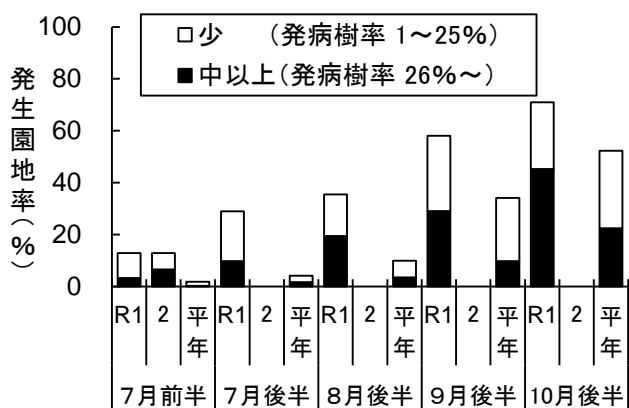


図1 褐斑病の発生園地率の時期別推移

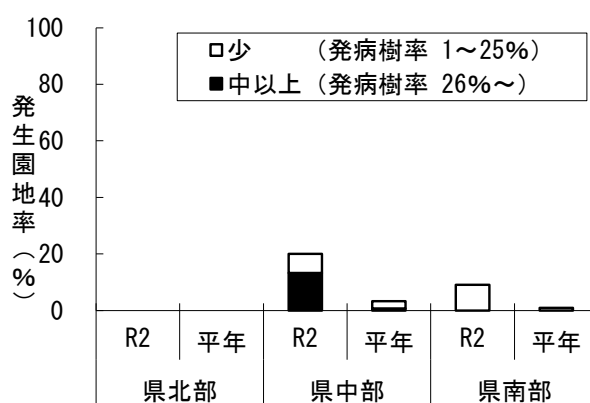


図2 褐斑病の地域別発生園地率 (7月前半)

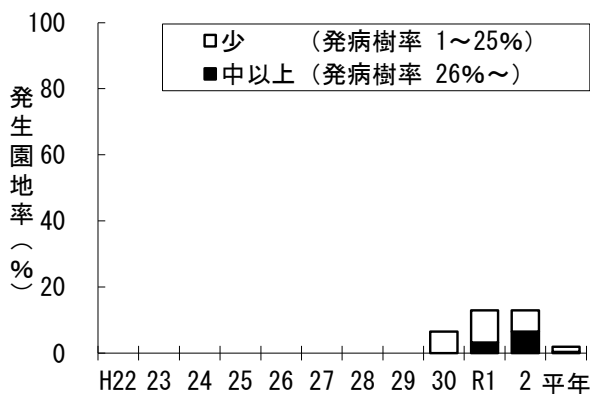


図3 褐斑病の発生園地率の年次推移 (7月前半)



図4 褐斑病の病徴
(黑色虫糞状の粒々が特徴)

～農薬危害防止運動実施中(6/1～8/31)～

【利用上の注意】

本資料は、令和2年7月8日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。

・農薬は、使用前に必ずラベルを確認し、使用者が責任を持って使用しましょう。

・農薬使用の際には、(1)使用基準の遵守(2)飛散防止(3)防除実績の記帳を徹底しましょう。

【情報のお問い合わせは病害虫防除所まで】 TEL 0197(68)4427 FAX 0197(68)4316

☆病害虫防除に関する情報は、いわてアグリベンチャーネット

(<https://i-agri.net/Index/gate003>)からご覧いただけます。